



高耐候性ラジカルプロテクト・ハイブリッド樹脂塗料改修システム

ウォールバリアシリーズ

WALL BARRIER SERIES

SUZUKA

ウォールバリアシリーズ

No.8

高耐候性ラジカルプロテクト・ハイブリッド樹脂塗料改修システム



スズカファイブ株式会社

建築塗料の総合メーカー



その家は ウォールバリア仕様



大切な家でずっと暮らしたいというシンプルな願い。「家」を思い考え抜かれた機能。
美しい「家」をそのままの美しさで次の世代へ。ウォールバリアは「変わらない」を追求しました。

ウォールバリアシリーズ

【上 塗】

◆ラジカル制御形ハイブリッド樹脂塗料

水系

超低汚染タイプ

■ 水性1液反応硬化形無機系塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

ウォールバリア水性無機HB⁺

■ 水性1液反応硬化形ふっ素樹脂塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

ウォールバリア水性F⁺

■ 水性1液反応硬化形アクリルシリコン樹脂塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

ウォールバリア水性Si⁺

■ 水性1液反応硬化形ウレタン樹脂塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形2種相当品

ウォールバリア水性U⁺

■ 水性1液反応硬化形強力防かび・防藻無機系塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

ウォールバリア水性無機BIO⁺

■ 水性1液反応硬化形強力防かび・防藻アクリルシリコン樹脂塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

ウォールバリア水性BIO⁺

1液弱溶剤系

☠ 遮熱色追加(1液ワイドウォールU及びBIOを除く)

■ 弱溶剤1液反応硬化形無機系塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

1液ワイドウォール無機

■ 弱溶剤1液反応硬化形NADふっ素樹脂塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

1液ワイドウォールF

■ 弱溶剤1液反応硬化形NADアクリルシリコン樹脂塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

1液ワイドウォールSi

■ 弱溶剤1液反応硬化形NADウレタン樹脂塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形2種相当品

1液ワイドウォールU

■ 弱溶剤1液反応硬化形強力防かび・防藻NADアクリルシリコン樹脂塗料

JIS A6909建築用仕上塗材 耐候形1種相当品

1液ワイドウォールBIO

【下 塗】 窯業系サイディングボード改修用

■ 水性1液エポキシ系改修用微弾性サーフェーサー

WBリメイクサーフEPO

■ 弱溶剤2液エポキシ変性有機・無機ハイブリッド透明シーラー
(特殊コーティングサイディングボード用)

WBグリップシーラーEPO

【下地調整塗材】 コンクリート・モルタル改修用

■ 水性1液ウレタン変性アクリル樹脂系改修用高弾性フィラー

WBリメイク高弾性ウレタンファイラー

■ JIS A6909建築用仕上塗材 可とう形改修塗材RE

WBリメイク弾性ファイラーRE

■ 水性1液エポキシ系改修用弾性フィラー

WBリメイク弾性ファイラーEPO

仕上がり見本

窯業系サイディングボード塗替えイメージ



既存素地 WBリメイクサーフEPO ウォールバリア水性Si⁺

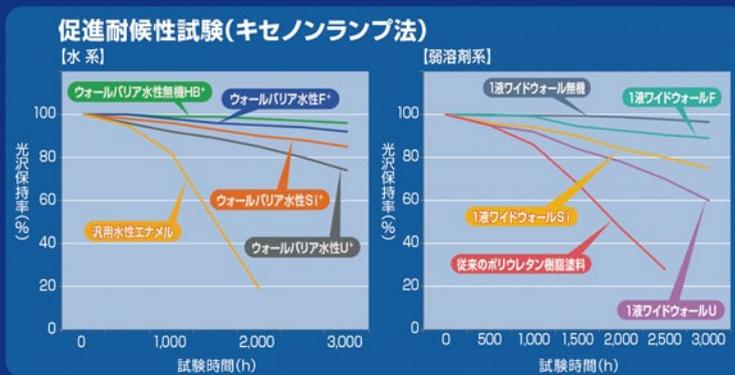
コンクリート・モルタル塗替えイメージ(さざなみ模様仕上げ)



旧塗膜 WBリメイク高弾性ファイラーEPO 1液ワイドウォールSi

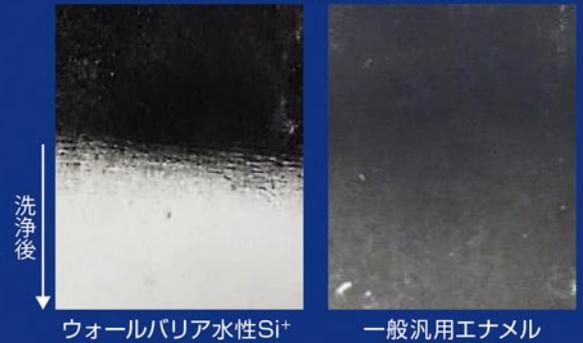


耐候性試験結果



耐汚染性試験

水性上塗材(+シリーズ)が有する機能です。



カーボンブラックを使用した耐汚染性試験で実力を証明

※排ガスに代表される有機系汚染物質を想定し、カーボンブラックの洗浄試験を行っています。洗浄後にカーボンブラックの付着が少なければ、雨水による排気ガス等の洗浄効果が期待できます。

注) 建物の構造、塗装部位(雨がかりが少ない面、汚れが多量に集まる面など)によっては、汚染除去効果が発揮されないことがありますのでご了承ください。

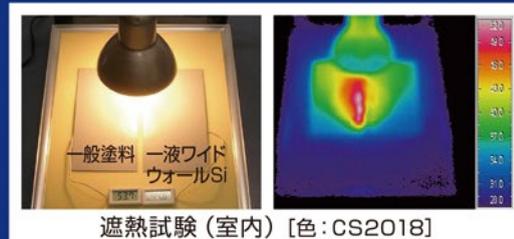
屋外暴露試験

暴露場所: 三重県四日市市
暴露期間: 半年



サーモグラフィで見る遮熱効果

※遮熱色限定



壁用標準色

1液ワイドウォール遮熱色シリーズ

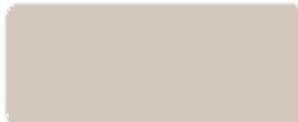
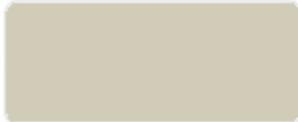
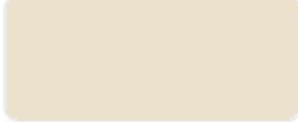
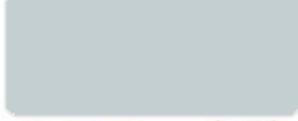
[近赤外線反射率]
●80%以上 ●65~80%

↑ CS4558 (淡彩)	↑ CS5008 (淡彩)	↑ CS2048 (淡彩)	↑ CS0018 (淡彩)
↑ CS3528 (淡彩)	↑ CS4018 (淡彩)	↑ CS2018 (淡彩)	↑ CS6028 (淡彩)
↑ CS4038 (淡彩)	↑ CS4117 (淡彩)	↑ CS4207 (淡彩)	↑ CS3226 (中彩)
↑ CS4287 (淡彩)	↑ CS3507 (淡彩)	↑ CS3586 (中彩)	↑ CS3596 (中彩)
↑ CS0028 (淡彩)	↑ CS0057 (淡彩)	↑ CS0097 (淡彩)	↑ CS0106 (淡彩)

・各製品とも、標準色設定のみとなります。
・色見本は紙に塗装していますので、実際の仕上がりや色・つやが多少異なります。ご了承ください。
・色によって材料費が割高になるものや調色扱いとなるものがありますのでご了承ください。

・広い面積に塗装した場合、実際の色が見本帳の色より多少明るく見える場合があります。
・近赤外線反射率は、1液ワイドウォールFの測定結果に基づく標準的な数値です。
・測定条件および製品の種類により若干増減の場合があります。

【 共通色見本 】

			
↑ A002 (淡彩)	↑ A005 (淡彩)	↑ A009 (淡彩)	↑ A010 (淡彩)
			
↑ A455 (淡彩)	↑ A401 (淡彩)	↑ A201 (淡彩)	↑ A303 (淡彩)
			
↑ A417 (淡彩)	↑ A204 (淡彩)	↑ A419 (淡彩)	↑ A428 (淡彩)
			
↑ A001 (淡彩)	↑ A602 (淡彩)	↑ A607 (淡彩)	↑ A420 (淡彩)
			
↑ A411 (淡彩)	↑ A320 (淡彩)	↑ A322 (中彩)	↑ A370 (中彩)
			
↑ A350 (淡彩)	↑ A358 (中彩)	↑ A359 (中彩)	↑ A305 (中彩)
			
↑ A500 (淡彩)	↑ A403 (淡彩)	↑ A470 (淡彩)	↑ A471 (中彩)
			
↑ A352 (淡彩)	↑ A271 (淡彩)	↑ A272 (中彩)	↑ A273 (中彩)
			
↑ A013 (淡彩)	↑ A650 (淡彩)	↑ A652 (中彩)	↑ A020 (中彩)

付帯部共通色見本《弱溶剤系専用色》

			
↑ WBブラック(濃彩)	↑ WBダークグレー(濃彩)	↑ WBマウンテングレー(淡彩)	↑ WBブラウン(濃彩)

●色見本は、紙に塗装していますので、実際の仕上がりとは、色・つやが多少異なります。ご了承ください。

●色によっては材料費が割高になるものや調色扱いとなるものがありますのでご了承ください。●広い面積に塗装した場合、実際の色が見本帳の色よりも多少明るく見える場合があります。

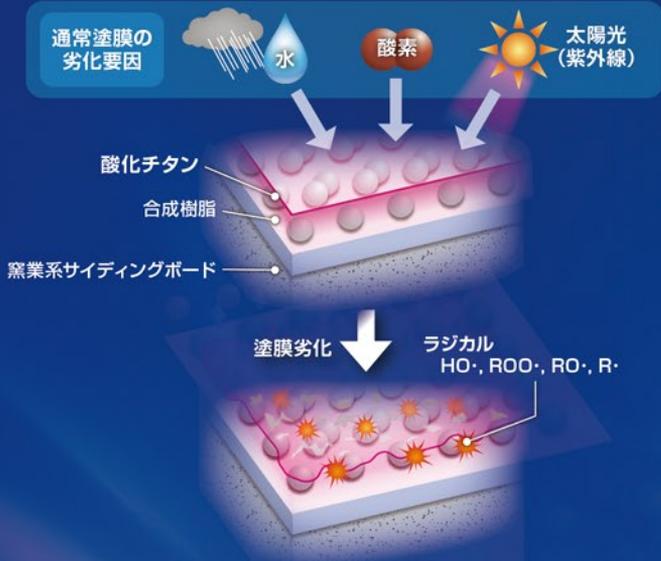
つや見本 [参考色:A204]

			
つや有り	7分つや	5分つや	3分つや

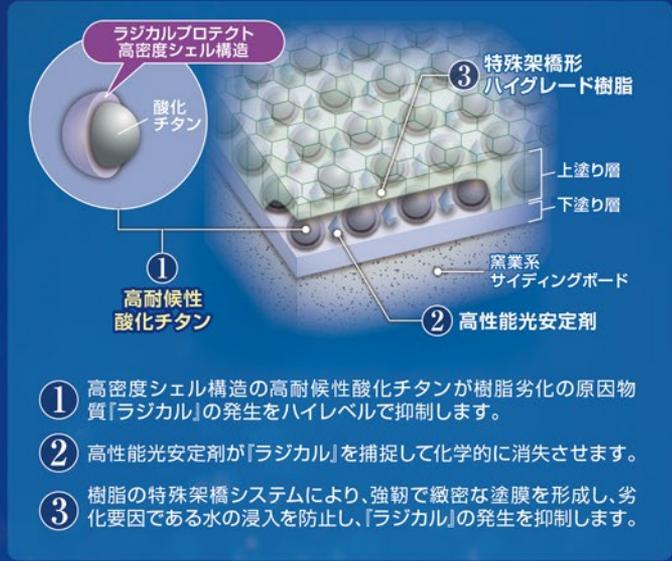
注) ●上記のつや見本は参考です。紙に塗装していますので、実際の仕上がりとは、色・つやが多少異なります。●つや調整品は色及び下地の状態により、つやの見え方が異なります。また、製品によっても多少異なります。

ウォールバリア水性シリーズ・1液ワイドウォールシリーズ スーパープロテクト機能により耐候性をグレードアップ

劣化のメカニズム



高耐候性の理由



低汚染のメカニズム

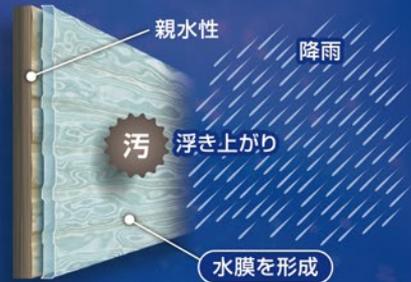
① タックフリー効果



② 帯電防止効果

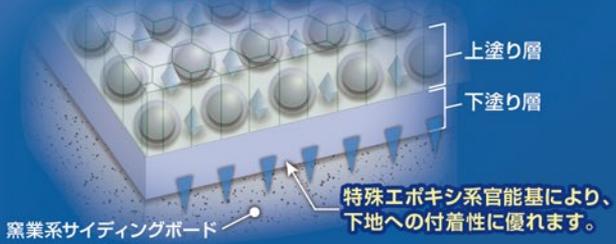


③ 親水性効果 ※1



その他の特長

① ウォールバリアシリーズ専用下塗りとの組み合わせにより、建物の保護機能を長期間維持します。



② 透湿性能を有する塗膜は、下地の水分を水蒸気として放散し建物の保護機能を更に高めます。 ※1

③ つやのバリエーションが豊富にあり、建物にマッチした美しい仕上がりが得られます。

④ 環境に配慮した安全性に優れた独自のバイオ技術により、かびや藻の発生を長期にわたり抑制します。 ※2

※1 水性上塗材が有する機能です。

※2 BIOシリーズは、更に強力な防かび、防藻タイプです。

商品体系

商品名	系統	容量	仕上がり	色相
ウォールバリア水性無機HB+	水系	15kg・3kg	つや有り 7分つや 5分つや 3分つや	白・黒・赤 赤さび色 オーカー色 黄色・紺・調色品
ウォールバリア水性F+				
ウォールバリア水性Si+				
ウォールバリア水性U+				
ウォールバリア水性無機BIO+				
ウォールバリア水性BIO+	弱溶剤系	15kg・3kg	つや有り 7分つや 5分つや 3分つや	白・黒・赤・赤さび色 オーカー色・黄色・紺 調色品 遮熱型用標準色(20色)
1液ワイドウォール無機				
1液ワイドウォールF				
1液ワイドウォールSi				
1液ワイドウォールU				
1液ワイドウォールBIO				

〈可使時間〉

塗料	気温	5~15℃	15~25℃	25~35℃
下塗り	WBグリップシーラー-EPO	7以内	5以内	3以内
	ワイドさびストップ	7以内	5以内	2以内

〔窯業系サイディングボード用〕

商品名	系統	容量	仕上がり	色相
下塗り	WBリメークサーフEPO	水系	15kg	— 白
	WBグリップシーラー-EPO	弱溶剤系	15kg セット(13:2)	— 透明

〔コンクリート・モルタル用〕

下地調整塗材	WBリメーク高弾性クレタファンfiler	水系	16kg	—	白
	WBリメーク弾性フィラー-RE※		15kg	—	白
	WBリメーク弾性フィラー-EPO				

※WBリメーク弾性フィラー-RE：JIS A6909可とう形改修塗材RE

〔金属サイディングボード・一般鉄部用〕

下塗り	ワイドさびストップ	弱溶剤系	16kgセット(14.4:1.6) 4kgセット(3.6:0.4)	—	白・グレー・黒 赤さび色
	1液ワイドさびストップ		16kg・4kg		
	エポマイルド		16kg・4kg※	—	白・グレー・黒 赤さび色 エクセルブラウン セピアグリーン ルーフブラック ルーフブラウン

※エクセルブラウン、セピアグリーン、ルーフブラック、ルーフブラウンは16kgのみ

塗替施工仕様書

窯業系サイディングボード・コンクリート・モルタル等

●下地調整

工程	塗材	割合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	施工方法
1	下地調整					<ul style="list-style-type: none"> ●既存塗膜の浮き、ふくれ、ぜい弱部などはサンダー・皮スキなどを用いて除去する。 ●汚れ、しんあい及びチョーキングなどの劣化塗膜を高圧水流(水圧:15MPa以上)で除去する。 ●水洗い面を乾燥させる。 ●既存塗膜の段差を同一模様になる塗材で復元する。 ●シーリング面は予めラフトン逆プライマーを塗装する。

■窯業系サイディングボード

●下塗り

2	下塗り	WBリメークサーフェスEPO 清水	100 3~5	0.2~0.4	1	3時間以上	ウールローラー塗り エアレス塗り
---	-----	----------------------	------------	---------	---	-------	---------------------

※コンクリート・モルタル下地の改修にも使用可能です。

●下塗り[下地:特殊コーティング(ふっ素・光触媒等)窯業系サイディングボード用]

2	下塗り	WBグリッシーラーEPO	100 (無希釈)	0.08~0.18	1~2	4時間以上 7日以内	ウールローラー塗り エアレス塗り
---	-----	--------------	--------------	-----------	-----	---------------	---------------------

※吸い込みの少ない活膜などを塗替える場合、塗付量目安0.05~0.07kg/mとし、塗り過ぎにご注意ください。
※下地の吸い込みが著しい場合は2回塗りし、工程内の施工間隔は3時間以上

■コンクリート・モルタル等

●下塗り[ウールローラー仕上げ] 既存塗膜:リシン・吹付タイル等

2	下塗り	WBリメークサーフェスEPO 清水	100 5~10	0.3~0.5	1	5時間以上	ウールローラー塗り
---	-----	----------------------	-------------	---------	---	-------	-----------

●下塗り[ざざなみ模様仕上げ] 既存塗膜:リシン・吹付タイル等

2	下塗り	WBリメークサーフェスEPO 清水	100 1~3	0.8~1.5	1	8時間以上	パターンローラー塗り
---	-----	----------------------	------------	---------	---	-------	------------

2	下塗り	WBリメーク弾性カタフィラ 清水	100 1~3	0.8~1.5	1	16時間以上	パターンローラー塗り
---	-----	---------------------	------------	---------	---	--------	------------

●上塗り

●水系仕様

3	上塗り	ウォールバリア水性シリーズ 清水	100 5~15	0.12~0.2	2	3時間以上 (最終養生) 24時間以上	ウールローラー塗り エアレス塗り
---	-----	---------------------	-------------	----------	---	---------------------------	---------------------

使用可能上塗:ウォールバリア水性無機HB[®]、ウォールバリア水性F[®]、ウォールバリア水性S[®]、ウォールバリア水性J[®]、
ウォールバリア水性無機BIO[®]、ウォールバリア水性BIO[®]

●弱溶剤仕様

3	上塗り	1液ワイドウォールシリーズ 塗料用シンナー	100 5~15	0.12~0.2	2	4時間以上 (最終養生) 24時間以上	ウールローラー塗り エアレス塗り
---	-----	--------------------------	-------------	----------	---	---------------------------	---------------------

使用可能上塗:1液ワイドウォール無機、1液ワイドウォールF、1液ワイドウォールS、1液ワイドウォールJ、1液ワイドウォールBIO
※1液ワイドウォールシリーズはWBリメーク高弾性ウレタンフィラーには適合しませんのでご注意ください。

※既存塗膜がふっ素・光触媒・無機等の特殊コーティングではなく、活膜の場合には弱溶剤仕様の下塗を省略
できます。

用途

建築物内外壁など

適用下地

窯業系サイディングボード・コンクリート・モルタル・
ALCパネル・スレート

金属サイディングボード・一般鉄部など

●素地調整

既存塗膜:SOP・フタル酸樹脂・塩化ビニル樹脂・アクリル樹脂など

工程	塗料	割合 (重量比)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
1	素地調整					<ul style="list-style-type: none"> ●ディスクサンダーなどの電動工具を主体とし、スクレーパー、ワイヤーブラシ、研磨布、皮すきなどの手工具を併用して、さび、劣化塗膜などを除去する。 ●油膜類は溶剤で除去する。

●下塗り

2	下塗り	ワイドさびストップ 塗料用シンナー	100 0~5**	0.18~0.24	1~2	3時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
---	-----	----------------------	--------------	-----------	-----	-------	-----------------------------

**ワイドさびストップをスプレー塗装する場合の希釈率は0~10%です。

●上塗り

3	上塗り	1液ワイドウォールシリーズ 塗料用シンナー	100 5~15	0.12~0.16	2	4時間以上 (最終養生) 24時間以上	はけ塗り ウールローラー塗り エアレス塗り
---	-----	--------------------------	-------------	-----------	---	---------------------------	-----------------------------

使用可能上塗:1液ワイドウォール無機、1液ワイドウォールF、1液ワイドウォールS、1液ワイドウォールJ、1液ワイドウォールBIO
使用可能下塗:ワイドさびストップ、1液ワイドさびストップ、エポマイルドなど

※特殊コーティング(ふっ素系等)金属系サイディングボード以外で、塗替え面にさびが発生していない場合には、
下塗りを省略することができます。

施工上の注意事項

- 下地は十分に乾燥させてください。(含水率10%以下、pH10以下)
- 窯業系サイディングボード及びALCパネルのひび割れ、欠損などは、パネル製造メーカーが推奨する補修材、工法で補修してください。
- コンクリート及びモルタル下地の巣穴、クラック、不陸、目遣いなどは、予め樹脂モルタルまたはラフトンカチオンSICフィラーなどで補修し、平滑にしてください。
- ウォールバリアシリーズを施工する場合、光触媒、無機系、ふっ素樹脂塗料などが施された特殊な下地に塗装する場合は予め付着性を確認の上、本施工を実施してください。
- 気温5℃以下、湿度85%以上及び結露が懸念される場合は、施工を避けてください。
- 強風時や降雨・降雪のおそれのある場合は施工を避けてください。
- 特殊コーティング(ふっ素等)の金属系サイディングボードへ塗装する際は、付着性を十分に確認の上、本施工を実施してください。
- 吹付施工の場合は、飛散防止の養生など十分に注意してください。
- 使用前に十分かくはんし、均一にしてから施工してください。
- うすめずばは、たるみ、隠れ不足、つや不良などを生じますので注意してください。
- たれ、塗り残しなどがないように均一に施工してください。
- つや調整品は、被塗物の形状、膜厚、色相、塗回数、希釈率により、つやが異なって見える場合がありますので、ご了承ください。施工前に必ず試し塗りをを行い、つや等の仕上がりを確認した上で、本施工を行ってください。
- ローラー塗装の場合、塗付むら、塗継ぎ、タッチアップなどにより、つやむらを生じやすい傾向にありますので、ご注意ください。
- 仕様の数値は、標準的な数値です。下地の形状や状態・施工方法・環境などによって増減することがあります。
- 各工程の間隔時間及び最終養生は所定の時間を厳守してください。
- シーリング材へ直接塗装すると硬化不良を起こします。また塗膜に割れ、剥がれ、汚れを生じることがあるため、塗装は行わないでください。やむをえず塗装を行う場合は、必ずシーリング材が十分に硬化していることを確認の上、予めラフトン逆プライマーを塗装してください。(ポリサルファイド系シーリング材の場合は2回塗りしてください。シリコン系及びブチルゴム系シーリング材へは、塗装を避けてください。)
- ※シーリング材へ塗装する場合は、専用設計された「ウォールバリアNBシステム」をご採用いただくことを推奨いたします。
- シャッター・歩行部位への使用は避けてください。
- 塗装面とプラスチックなど可塑性を含むものが接触する箇所には塗装しないでください。
- ベンチ・ジャングルジムなどが乗るもの、またテーブル・カウンター・棚など物を置くものへの塗装は避けてください。
- 補修塗りは、使用した塗料(同一ロット)を用いて、同じ塗装方法で行ってください。
- BIOタイプは、かびや藻などの繁殖抑制効果を示すものです。施工部位の形状(水分が滞留しやすい壁面など)や環境(補栽、森林、湖沼などに隣接している壁面、建物の北面、かげなど常時湿気が高い壁面など)により、防かび・防藻性能が十分発揮されない場合があります。また、防かび・防藻剤の効果は永久に持続するものではありませんので、抑制効果の低下と共に経時的にはかびや藻などが再発生する可能性があります。

取扱い上の注意事項

- 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。
防護マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業衣・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 容器から取り出す時に、こぼれないようにしてください。
もしこぼれた場合には、布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量のしけん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 蒸気・臭いなどを吸い込んで気分が悪くなった時には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合には、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けてください。
- 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- 容器は密栓し、40℃以下で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管してください。
特に下記の場所の保管は避けてください。
- 雨水や直射日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所など
- 捨てるときは、産業廃棄物として処分してください。

注) ①建物の構造、塗装部位(雨のかりがりが少ない面、汚れが多量に集まる面など)によっては、低汚染効果が発揮されないことがありますのでご了承ください。

②各製品の容器には、取扱い上の注意事項などを記載していますので、必ずお読み頂き、正しく安全にご使用ください。

また、製品の詳細な内容が必要な時には、安全データシート(SDS)をご参照ください。SDSは当社ホームページよりダウンロードしてください。

- ※溶剤系塗料を使用する時は、左記の注意事項に合わせて下記事項に注意してください。
- 引火性の液体です。火気のあるところでは使用しないでください。
- 吸入すると有機溶剤中毒を起こす恐れがあります。蒸気・スプレームストを吸い込まないよう必ず保護具を着用してください。
- 取扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
- 取扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。
有毒ガス用防毒マスクまたは送気マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業衣・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 臭いは食品・飲食器・衣類などに、うつる場合がありますので、作業場所から遠ざける、または養生するなど、十分に注意してください。
- 容器から取り出す時には、こぼれないように注意してください。
もしこぼれた場合には、布で拭き取って、水の入った容器に保管してください。
- 火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器、または粉末消火器を用い初期消火をしてください。



営業本部 〒510-0101 三重県四日市市桶町小倉1058-4 ☎059-397-2187 FAX 059-397-6191
研究開発本部 〒510-0851 三重県四日市市塩浜町1 ☎059-346-1116 FAX 059-346-4585

札幌支店 ☎0133-60-6311 東京支店 ☎03-5661-2211 名古屋支店 ☎052-411-1255
大阪支店 ☎072-862-1601 広島支店 ☎082-277-1116 四国支店 ☎0877-24-4621
九州支店 ☎092-938-0071



URL <https://www.suzukafine.co.jp/>

●この見本帳に記載の商品の内容は、改良などのため予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。
●この見本帳に記載以外の下地や仕様で塗装される場合は、最寄りの営業所にお問い合わせください。